

第4回 小牧市地域包括ケア推進計画策定委員会 議事録

日 時	令和5年8月17日(木) 午後1時30分～3時
場 所	小牧市役所 本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>【出席委員】(名簿順)</p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 校長 加藤 益丈 小牧市歯科医師会 副会長 石田 幸大 小牧市薬剤師会 永平 美奈子 小牧市介護保険サービス事業者連絡会(居宅介護支援部会) 江口 はづき 小牧市介護保険サービス事業者連絡会(施設部会) 河内 宏一 小牧市リハビリテーション連絡会 三嶋 直美 南部地域包括支援センター 管理者 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 事務局次長兼在宅福祉課長 鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク 副代表理事 大野 徳一 区長会連合会 連合副会長(巾下地区) 小林 静生 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会 篠岡地区会長 鈴木 久代 学校教育課 指導主事 橋本 牧男 公募委員 山本 菜々美 公募委員</p> <p>【欠席委員】</p> <p>前川 泰宏 小牧市医師会 理事 小木曾 眞知子 障がい福祉相談支援事業所</p> <p>【事務局】</p> <p>小川 真治 福祉部 次長 西島 宏之 地域包括ケア推進課 課長 水野 清志 介護保険課 課長 倉知 佐百合 地域包括ケア推進課 福祉政策係 係長 社本 里美 介護保険課 保険資格係 係長 丹羽 雄己 地域包括ケア推進課 福祉政策係 主査 中村 なぎさ 介護保険課 保険資格係 主査 櫻井 克匡 小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 池谷 基善 小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 地域係長</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>資料1 小牧市地域包括ケア推進計画策定委員会設置要綱</p> <p>資料2 委員名簿</p> <p>資料3 第3次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画進捗状況概要</p> <p>資料4 第8次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況概要</p> <p>資料5 小牧市地域包括ケア推進計画の骨子、施策体系(案)</p>
当日配布資料	・配席表

1. 開会

2. 議題

(1) 第3次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画、第8次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況について

- ・事務局より、資料3（第3次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画進捗状況概要）及び資料4（第8次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況概要）を用いて説明。質疑、主な意見は以下の通り。

鳥居委員)

まず1点目が、「重点事業1 福祉教育を通じた人材育成の充実」のところで、ボランティア団体数の達成状況が△になっています。ボランティア登録団体活動件数の達成状況も△になっていますが、新型コロナウイルス感染症の影響があるということで、網掛けになっております。市民活動ネットワークでの調査結果をみますと、この2つの指標は連動しておりまして、新型コロナウイルスの影響で活動が中止になったことや、担い手が高齢化していることもありリスクがあるので関わりたくないということで、辞めていった方が多いということがありました。したがって、団体数についても、新型コロナウイルスの影響があるのではないかと考えております。

2点目は、災害時避難行動要支援者台帳についてです。登録者数については○ですが、登録率については△になっています。この達成状況の違いについて理由を教えてくださいたいと思います。

長岩会長)

1点目は、重点事業1のボランティアの登録団体と活動件数の関係について、2点目は重点事業5の災害時避難行動要支援者の台帳登録者数は○になっているが、台帳登録率が△になっている点についてもう少し説明してほしいということですがいかがですか。

事務局)

ボランティア登録団体数につきましては、活動そのものと比較しますと、影響は少なかったのではないかとということで網掛けとはしませんでした。委員ご指摘の通り、一部新型コロナウイルス感染症の影響があったという認識もしておりますので、網掛けとしてもよいのではないかと考えております。

2点目の災害時避難行動要支援者の登録者数につきましては、基準値を過去4年間全て上回ったということで、○と記載しておりまして、登録率につきましては、母数の関係もありまして、過去には上回った年がありますが、基準値を上回らない年度もありましたので△とし、達成状況に違いが生じていると認識しているところです。

長岩会長)

4つの達成状況については微妙な部分があると思います。

平成28年の実績が基準値となっておりまして、○は過去4年間すべてにおいてその基準値を上回った場合。△は基準値を上回らなかったが過去に上回った年がある場合で、○と△の違いがそれほど大きくないために、ご質問のような事例が生じていると思います。先ほどの説明ですと、例えば重点事業4は、地域見守り活動の充実ですが、サロン数、居場所数、団体数、事業者数などは、コロナでやめましたという届け出をわざわざ出すことはないと思いますので、

それほど減っていないのではないかと考えます。鳥居委員がご指摘のように、実際にその場所で団体が活動をしているかということになると、資料の数字とは違う数字が実態としてはあるのではないかと思います。したがって、ボランティア登録団体活動件数のような指標はどうしても下がってしまうというのが実情ではないかと思いましたが他の委員さんいかがでしょうか。

鈴木委員)

重点事業1の認知症サポーター数についてです。見守るサポーターの数が年々増えているのは大きな成果だなというふうに感じました。学校においても認知症サポーター養成講座をやっていたいただいて、子どもたちが受講をしています。このサポーター数の数値は、前年度の数はそのまま、増えた人数を累計で挙げていると思います。増えた数に、学校でサポーター養成講座を受講した子どもの数も含まれているのか、それとも一般市民の方で自主的にこういった講座を受講して下さっている方の数だけなのかというところをお聞きしたいと思います。

事務局)

サポーター養成講座の受講者数については、学校で受けていただいた児童・生徒の皆さんも含めた数となっております。

長岩会長)

この指標については、累計なので、△、×にはなりえないという指標だと思います。

長岩会長)

資料4の第8次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況概要についてはいかがでしょうか。

鳥居委員)

まず1点目が、「4 生きがいつくりと社会で活躍できる場の充実」の「こまき支え合いいきいきポイント還元者数」の達成状況は×になっている一方で、先ほどの資料3の中のふれあい・いきいきサロン数は◎になっております。ふれあい・いきいきサロンの活動をされている方がいきいきポイント還元者の数に関係してくるのではないかと私は思っているのですが、それが少ないということは、活動が実際はあまりできてなかったのではないかと思います。したがって、今後のこの数字の取り扱いについて、ふれあい・いきいきサロン数とともにふれあい・いきいきサロンで活動した件数を入れていただくと、より一層サロンの充実が図れるのではないかと思います。いかがでしょうか。

2点目は、「II 助け合いの地域づくり」の避難行動要支援者支援制度の登録者数と登録率について、令和5年度の最終目標値が3,200になっていますが、資料3で同じ内容のものがありまして、最終目標値が3,300と違う数値になっています。本来同じものであれば同じ数字の設定になるのではないかと思います。その辺りを教えてください。

長岩会長)

1点目はこまき支え合いいきいきポイント還元者数に関連して、ふれあい・いきいきサロンで活動した実績も指標とした方が現実的ではないかというご指摘です。

2点目は避難行動要支援者支援制度の登録者数の最終目標値について、資料3と資料4でずれがあり、これは計画の策定期間によるずれかどうかという確認です。

事務局)

1点目のこまき支え合いいきいきポイントの対象となる活動場所につきましては、ふれあい・いきいきサロンでの活動も含まれておりますので、現状加えた状態での数値ということでは

ご認識いただければと思います。

2点目につきまして、地域福祉計画につきましては、平成29年度に策定し、その後延伸をかけております。策定期間の違いから数値目標値が異なっております。数値を合わせた方がよいと考えますので、今後こういった状況に注意してまいりたいと思っております。

長岩会長)

今回一緒にまとめて計画をつくろうということですが、現状の計画では地域福祉計画と、高齢者保健福祉計画は別々の計画で、策定の時期が違うので、目標も違って評価も結果的にばらつきが出てしまっているという事情のようです。

田中副会長)

第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画と第8次高齢者保健福祉計画の棚卸しという部分でいうと、今まで市も熱心に取り組んできていただいた地域ケア会議や、多職種カンファレンスなどの中で、地域課題は何かということ、非常に多くの時間を割きながら洗い出してきた経緯があると思います。今後計画づくりに入っていくときに、出てきた地域課題に対しての働きかけというのは、やっぱり重要になってくると思いますので、ぜひその部分を整理してまとめたものを掲載していただきながら、次の地域包括ケア計画へ結びつけていただけるとありがたいと思います。

長岩会長)

これはご要望としてお受けとめいただければと思います。

資料4の「2 フレイル・オーラルフレイル予防の推進」について、小牧市は早くからこの項目を掲げていただいているわけですが、達成状況としては「一」や「△」が多い状況です。加藤委員はこの辺りをどうお考えですか。

加藤委員)

実績が「未」となっているところもありますが、この項目についても、新型コロナウイルスの関係があるのではないかと考えているところでもあります。今後の話になりますが、オーラルフレイル予防に関しては、個別検診の方にも組み込んで、ある程度予防の推進をしていけるのではないかと思います。予防の推進が進んでくると、数値の達成状況としてもある程度よい影響が出てくるのではないかと考えております。

長岩会長)

橋本委員はいかがですか。

橋本委員)

資料4の「2 フレイル・オーラルフレイル予防の推進」について、この3年、4年は新型コロナウイルスの関係で、参加者が減っていると思いますが、その中にもいろいろな考え方があります。フレイル予防のために新型コロナウイルスが流行している中でも活動に参加しつづけている方もおられます。例えば、私はフレイル予防の一環として、こまき山体操を様々な場所でやっておりますが、新型コロナウイルスの前と後で参加してくれる方の人数はそれほど変わらず、約20人から約30人です。新型コロナウイルスがこれだけ流行っていて、外出も自粛が求められているが、なぜ参加されるかを聞いたところ、「新型コロナウイルスに感染するリスクもあるが、それよりも、寝たきりになるのが嫌だ」ということでした。やはり高齢者にとってはフレイルになることを一番気にされており、自分のことは自分でしたい、健康で長生きしたいという気持ちをもっていると思います。参加されている方と顔見知りになり関係性ができてきたので、意見を聞きながら進めているところですが、他の健康教室などを行っている方の

意見をお聞きして、私たちがやっていることが本当にいいのかということも含めてご意見をお伺いしたいと思います。

長岩会長)

このことについて、河内委員はいかがですか。

河内委員)

リハビリテーション連絡会の方でも、こまき山体操に関しては、指導という部分で携わっていきまして、今年までに6圏域全ての地域で実施できる形をとっています。ふれあい・いきいきサロンの方にも出向いておりまして、「週1回以上こまき山体操を実施している団体数」という指標がありますが、ふれあい・いきいきサロンによっては月1回など、体操の実施回数が違うので、このような数になっていると思います。

「リハビリテーション専門職派遣数」という部分はこまき山体操に関する派遣数ということだと思いますが、それ以外の出前講座等も少しずつ行っている最中です。今後もいろいろとふれあい・いきいきサロンに出向いて、転倒予防やフレイルについての啓発などを続けていきたいと考えております。

長岩会長)

フレイルに関心があり、問題意識が高くて、コロナ禍でも思いの外参加者が多いというのは非常によいことだと思いますが、田中副会長はご意見などありますか。

田中副会長)

コロナ禍でもふれあい・いきいきサロンは非常に苦勞して開催を継続しておられたところもたくさんあります。集まらない中でもチラシを配ったり、はがきを送ったりといういろいろな工夫をしておられました。この資料に出てこないとしても、つながりづくりや、介護予防などにも繋がってくるものがあつたのではないかと思います。

長岩会長)

他市ではコロナ禍でもうやめてしまおうというご意見の人と、こういう時だからこそやらなければいけないのではないかという意見の人で、グループが仲間割れしたりして大変だったような話も聞いています。三嶋委員、何かお気づきのところがあれば、ご発言をお願いします。

三嶋委員)

私は地域包括支援センターとして個別の相談を受けたり、個別の支援をしたりという立場でお話をさせていただきます。先ほど田中副会長からご意見がありました地域ケア会議を地域包括支援センターで開催させていただいておりまして、その中で地域の課題はどういうものがあるだろうかと話し合うことをしております。その辺りが今回の計画の中に反映してもらえるとありがたいということを思っております。

もう1つは、尾張北部権利擁護支援センターの認知度が資料に記載されていますが、認知症の高齢者の方がたくさん増えている状況がある中で、自分のことを自分で決めることができなくなっているお年寄りがいたり、ご家族との関係が希薄になっていて、十分な支援が受けられなくなったり、身寄りがいない方などいろいろな方がいらっしゃる、そのような方の支援が何かあるといいということを常々思っています。そうするとやはり遠くの身内よりも、ご近所のネットワークといったものがすごく大事になるのではないかということを感じています。ご近所ネットワーク的なところの活動を地域協議会の方でもされているようなので、そういったところが充実するといいのではないかと思います。

長岩会長)

先ほど田中副会長からもご指摘があつた地域ケア会議の中で抽出した地域課題を、どのよう

に次につながるかということに関して、現状はどのような体制になっていますか。地域課題を行政にあげ、行政の方がそれを精査するという形ですか。

河内委員)

地域ケア会議であげられた問題点を、プロジェクトチームで検討をしているところです。具体的にどのようにして政策に結びつけていくのかという話し合いがやっと始まったところで、意見を出し合って、市の方に提言していくという形が構築されつつある段階だと思います。行政の方にきちんと提案し、それが反映されればよいのではないかと考えておりますので、今後しっかりとやっていきたいと考えております。

長岩会長)

行政にすでに提案されているのであれば、それを今回の計画には何らかの形で反映させた方がよいと思いますし、提案されるまでには至っていない段階だとすれば、その中間総括のようなものを整理していただいた方がよいのではないかと感じました。

あと成年後見や権利擁護支援センターの部分は、認知度の指標が出ていますが、意思決定のような支援をどこまでやっていくのかということについては、センター任せというわけにはいかないと思いますので、その点についても、具体的に表記していければよいのではないかと思います。

今日のこの資料は、基準値と目標値との関係で達成状況を評価するということですが、難しいと思うのは、特に高齢者保健福祉計画については、コロナ禍での計画でしたので、目標値を現行計画よりも上乘せしてよいのかどうかという部分です。かなり落ち込んでいる数値もあるので、判断が難しいと感じました。普通は目標値を上方修正していくというのが、計画づくりの常套手段ですが、落ち込んだ部分を無視して、引き続き上げていくのか、きちんと精査して、コロナ禍前の目標ぐらいがちょうどいいと考えるのか、判断が難しいと感じました。

山本委員)

私もいろいろな地域活動をさせていただく中で、橋本委員もおっしゃっていたように、こまき山体操など、健康への意識はすごく高いということを感じていますが、自宅で転倒して入院し、来られなくなった人がいるなど、参加している方の変化を感じています。また、歩いて行ける距離だから、体操に参加できるが、私の地域ではそのような場所がないという言葉が時々聞きますので、ふれあい・いきいきサロンでも活動内容を体操に変えている地域が多いかと思いますが、近い場所に行けないという問題があることを感じています。

最近ネットニュースで見て心配になったこととして、体操などをする会館などの場所が今後老朽化の問題もあって減っていくのではないかとことがあります。高い目標をもって、皆さんが健康でいられるような場所づくりをしようというときに、その場所がなくなっていくのではないかとことを心配しています。

長岩会長)

ご指摘があった場所の問題というのは、老朽化などの話もありましたが、具体的に危機感がある状態ですか。

事務局)

会館は老朽化など様々な課題があるかと思いますが、修繕等を実施している状況もございますので、今の段階ですぐに問題が生じる状況ではないと認識しております。

長岩会長)

ふらっと歩いて行けるところにいろいろ居場所をつくるというのは、地域福祉計画でもすごく大事なことだと思いますので、簡単ではないですが、空き家活用のようなことも小牧市では

どうなっているのかということにも関心を持っていく必要があると考えます。

(2) 小牧市地域包括ケア推進計画の骨子、施策体系について

- ・事務局より、資料5（小牧市地域包括ケア推進計画の骨子、施策体系（案））を用いて説明。質疑、主な意見は以下の通り。

長岩会長)

今回特に確認をさせていただきたいのは、基本理念、基本的な視点、基本目標の部分です。今ご説明いただいたところで、今回はこの部分を重点的にとか、もう少しこの部分を強化して欲しいとか、盛り込まれていないがこのような課題も重要ではないかということがあればぜひご指摘いただければと思います。

鳥居委員)

今回の計画は、地域福祉計画・高齢者保健福祉計画を一体的に策定するというものでありますが、別々につくられているような気がします。中身も半分以上が重複している内容がありますので、その部分を整理していったらどうかと思います。

内容について、10ページの「地域で支え合う人づくり」の主な既存事業の中で、中学生および高校生福祉体験学習とありますが、小学生も関心が高く、参加してもらっているので、小学生も入れていただきたいと思います。また、「安全に暮らせる基盤整備」に災害の部分がよく記載されていますが、福祉体験学習の中に災害についての内容がありませんので、入れていただくとよいと思います。

11ページについて、「ポイント制度を広げ」とありますが、実際ボランティア活動をしている実感としては、ポイントをいただけるのは限定的な方になっているということです。今後、裾野を広げていくという意味で、ポイントの対象者を増やしていただき、福祉のボランティア活動をしている方の範囲を広げていただきたいなと思っております。

13ページについて、「安全に暮らせる基盤整備」のところで、台帳の登録だけではなく、個別避難計画についても本来はつくるべきでないかと考えますので、次のステップのとして記載してはどうかと思います。

19ページの「地域で支え合う人づくり」というところで、先ほど地域協議会の話があったと思いますが、私も関わっておりまして、おたすけ隊という組織があります。地域の皆さんに関わってくださいというボランティア募集をしております、地域で少しでもボランティア活動してみたいという方をつなげるシステムをもう少し周知してはどうかと思います。

また、「みんなが活動できる場や機会の充実」という部分に関連して、先日、田島の郷に見学に行ってきましたが、すごくよい老人福祉施設だと思いました。従来の施設では、高齢者が利用するのみだったのですが、この施設は、一般の方も違う日に利用できるスペースがあるため、一般の方と高齢者が交流できると思いました。この施設を活用して、多世代交流も図っていったらいいのではないかと考えました。みんなが活動できる場になると考えます。

マッチングのしくみづくりについては、ボランティアセンターとワクティブこまきの利用について追加していただきたいと思います。この場所に来ることで情報に触れて、マッチングがうまくいくのではないかと考えます。

21ページの「安心な暮らしのサポート体制の充実」の高齢者住宅改修助成事業について、最近すごく災害が多く発生していて、昨日も台風が来ていましたが、もしかしたら、この地域でも鳥取県のような状態になっていくかもしれないと思います。水害もそうですが、地震も心配で、家の耐震化が進んでいないので、耐震化の啓発を進めていただきたいと思いますし、そ

れができなくても家具の固定など、ボランティアやおたすけ隊、シルバー人材センターなどと連携して、ひとり暮らし高齢者の家具の固定を助成する制度があったらよいのではないかと思います。私は災害ボランティアもやっていますが、災害が起きたときにボランティアが台風の後片付けなどで支援に入ることができています。社協で災害ボランティアセンターが立ち上がった時には、ぜひそこを利用するような周知をしていただいて、地域だけではなくボランティアと連携する必要があると思います。先ほど、学生に防災の学習が必要だと発言しましたが、日頃、日中に動ける方は、小学生の高学年、中学生、高校生です。大人は多くが働いている中で、学生はすごく大きなパワーを持っていますので、防災教育をしっかりといただければよいと思います。また、防災訓練をもっと具体的にして、安否確認だけではなく、誰が避難させるのかという個別避難計画を、当事者、家族、行政等で話をしながら、一緒になって作成するというのを今後しっかりと検討していただきたいと思います。

長岩会長)

多岐にわたるご意見をいただきましたが、それだけ、この計画の範囲が広いということでもあると思います。特に災害時の対応の部分は、この計画のメインではないと思われませんが、鳥居委員がご指摘のように、平常時の取り組みが災害時にも当然影響をもたらしますので、地域福祉計画のカテゴリーに十分入ってくると考えられます。

4つの計画を融合していくのかと思ったが、今日の章立てを見ると、縦割りになっているというご指摘でした。これはどうしようもない部分もあるかもしれませんが、どの部分がこの計画であるということを、県や国等に示さないといけないので、どうしてもこのような形になるのではないかと思います。今日はこのように、いろいろご要望・ご意見をいただきたいと思いますが、他の委員さんいかがですか。

小林委員)

5ページの外国人国籍の人の状況を見ますと、2022年には人口の6.9%を外国人国籍の人が占めているということで、この数字には驚きました。令和22年度に小牧市の人口が約13万2,000人に減ってしまうという推計が3ページに出ている中で、外国人の方がどれぐらいの比率を占めていくことになるか、その中で福祉計画等がどのように対応していくのか、十分に理解していただける方がどれだけいるのかということを感じました。豊田市などは非常に外国人の方が多く聞いていますが、民生・児童委員としてどのように対応したらいいのかということも含めて、心配だと感じています。

また、13ページの「安全に暮らせる基盤整備」に災害時避難行動要支援者台帳のことが記載されていますが、現状では、地域により、そのリーダーによって、すごく差があるように感じます。市全体としてのレベルアップを図るためには、どういったような教育・スキルアップが必要かということ行政が真剣に考えていただかないといけないのではないかと考えます。こちらの地区では助かったが、別の地区では、残念ながら助からなかったということが起きないように、小牧市として基盤を整えないといけないと思いました。

長岩会長)

地域共生社会という言葉が説明にもありましたが、外国人の人たちとの共生というのが、今回のこの計画の見直しのところで、今まで以上に取り上げる必要があるのではないかとご意見だと思います。

災害時要支援者台帳については、地域格差があるということ承知しているのであれば、行政計画としてその格差を解消しないといけない、地域の責任だけにできないということで、こちらでも重要なご指摘だと思います。

大野委員)

先ほど鳥居委員が言われたように、防災訓練ひとつをとっても、役所の縦割りというのは、残念な現状だと思いますが、以前勤めていたときの経験から、縦割りをなくすのは非常に難しいと感じています。防災訓練中に、災害時要支援者台帳の安否確認だけではなく、その次のこともやろうとすると、どの部署がやるのかということを経験が考えていくことになると思います。役所の立場も理解できますが、一般の方の希望もよくわかるので、非常に難しいですが、縦割りをなくすように考えた方がよいと思います。

長岩会長)

縦割りをどのように克服して乗り越えるかという部分が、今回この計画をまとめてつくるときには、大事なことだと思いますが、福祉関係以外の部署が主に担うところが確かにいくつかありますので、この部分を最終的にどのように市内で調整していくのかということに関わってくると思います。

先ほど小林委員から外国人の人との共生について意見がありましたが、外国人の人の要介護の問題などは、小牧市で表面化しているのか教えてください。

永平委員)

要介護者の外国人の方もいらっしゃいます。少し言葉が通じにくかったり、意味が通じなかったりしますし、訪問しても外国に帰ってしまっていることなどもあります。また、配偶者が外国人であったり、息子の妻が外国人であることもあり、言葉が通じにくかったり、こちらの意思が通じにくかったりしますが、地域包括支援センター等の協力を得るなど、事業者間の連携をとりながら、今のところは何とかなっています。

江口委員)

在宅でも配偶者の方が外国人という方が増えているという実感はありますが、今のところ特段困ったということはないと思います。ただこの先、外国人の方がもっと増えていったときにはどうかということはありません。

働き手の部分で言うと、介護職員の不足から、外国人の雇用が視野に入ってきていますし、介護福祉士の資格を取れば、永住権が取れるということで家族の帯同ができることで、この先増えていくということも考えられると思います。

長岩会長)

外国人の介護職員としての登用・活用というところは、介護保険事業計画のところで、どこまで政策として打ち出していけるのかということが大事になってくると思います。なかなか単独の市町村では、難しい部分もあるかもしれません。

橋本委員)

これからどんどん超高齢社会になり、高齢者が増えていく中で、民間で支えていくためには、やはり我々のような高齢者ではなく、もう少し若い人に地域のリーダーとして参加してもらうことが必要ではないかと思っています。

そのような若い人たちにこれから活動をしていただくためには、先ほど話がありました、こまき支え合いいきいきポイントの商品券の配布等を充実させることを検討していただきたいと思っています。現在の制度でもそれなりにより効果がでていますが、上限が5,000ポイントになっており、本来は10,000ポイントくらいもらえる方も5千円の商品券のみをもらっている状況です。後任のリーダーを育成し、担い手を増やすためにも、上限を増額していただくことをお願いできればありがたいと思います。

長岩会長)

活動を維持・継続する仕掛けとして、支え合いポイント制度が有益だというお立場からのご意見でした。動機づけのツールとしてどのように運用するのかということも、大事な視点だと思います。

鈴木委員)

他者の痛みを感じて、他者に寄り添い、支え合うという教育は、本当に学校教育が担うところが大きいと感じました。養成講座等があつて、子どものうちからそのような意識を育てることはすごく大事で、この小牧でずっと住み続けたい、小牧が好きだと思えるような子を育てていくことが、地域を支えることに繋がるのではないかと思います。

長岩会長)

先ほど、鳥居委員から、福祉体験学習について、中学生からと記載があるところを小学生からできないかという意見がありましたが、何か支障がありそうですか。

鈴木委員)

小学校でもふれあいセンターから出向いていただいて、講座を実施されていますので、問題ないかと思います。

石田委員)

地域住民の方に対して基本的な事柄を伝えることも大切なのではないかと思います。例えば、先ほどフレイルチェックを増やしていきたいというお話もあったと思いますが、そもそも「フレイル」という言葉を、地域の住民の方は知っているのか、オーラルケアを怠ることでオーラルフレイルに繋がるということやオーラルフレイルになったらどうなるのかという根本を各事業所から伝えることによって、健康意識の向上、地域福祉に対する意識の向上につながり、参加者も増えていくのではないかと思います。

また、みんなの支え合いで繋がるまちにしていきたいということなので、私たちの事業所間で良好な関係がつかれるように、様々な多職種連携の会議や行事をもっと増やしていただきたいと思います。普段の業務もあるので参加できないというタイミングもどうしても出てきてしまいますので、参加機会を多く設けてはどうかと思いますし、事業所の代表ばかりが行くのではなくて、現場のスタッフが参加することで、各事業者の方々と関係を持つよい機会になるのではないかと思いますので、そのような時間を増やしていただけるとありがたいと思いました。

長岩会長)

6 ページの基本理念、基本目標が、「みんなが」、「みんなに」、「みんなで」となっているように、「みんな」が今回のキーワードになっていますので、この部分をどのように地域の方に投げかけていくのかということについて、具体策も必要になるし、大事なのではないかと思います。このキーワードの捉え方は、様々な捉え方があり、人によっては行政計画なのに、地域住民に全部任せているような受け取り方をされる可能性もないわけではないと感じます。地域福祉はまさに、みんなで取り組むことではあるのですが、やはりそういう受け取り方をされないように、行政はこういうところできちんと取り組む、専門機関の専門職がこういうところできちんと取り組むというところをしっかり併記していかないと、住民に全部任せるように受け取られてしまうかもしれませんので、十分注意が必要ではないかと考えます。

山本委員)

高齢者の方がこれから増えて、働く世代の方が減っていく中で、鳥居委員が言われていたように、学生の人たちの活動が大事になってくるということを感じました。ただ、子どもたちは柔軟な発想で、困っている人がいたら声かけるのだろうなと思っていたんですが、実際は意外とどうしていいかわからなかったり、こういうふうにしたらいいのではないかと考えるところまでいかなかったりすることが少なくありません。したがって、地域の避難訓練や防災訓練など、学生を主体として計画させたり、大人が考えた計画の中に子どもを引き入れたりするとよいのではないかと思います。私の子どもも、実際に様々な施設に行ったり、地域活動に参加させてもらっていたりしているのですが、そういうところに行った時や、普段会った時に、大人から声をかけてもらえることがすごく嬉しいみたいで、それがきっかけで普段の生活の中でも、困っている人がいたら声をかけるようになってきているように思います。

みんなで支え合うということなので、今から活躍してくれるのは、本当に働き世代よりもっと下の子どもたちが、頼りになるのではないかと思います。みんなで支えるときに、大人だけではなく、外国人の方にも、子どもたちにも、今、主として活動している方々が声をかけて、引き入れていくことができればよいのではないかと思います。

長岩会長)

将来の担い手ということを考えてときに、子どもたちにどのように働きかけていくか、直接的な体験を通じて関心を持ってもらうということが大事だというご指摘だったと思います。

小牧市の今回の計画は、以前にも実施していますが、小中学生の意識調査までしており、他の市町村ではなかなかそこまで実施していないので、こういう調査ができる基盤があるのだと思います。調査で終わらずに、何らかの形で計画の中に組み込んでいければよいと感じました。

田中副会長)

基本理念の「みんなが主役」というキーワードの「みんなが」という部分は、以前の計画の理念にあった「あなたが」ということではなく、「これからみんなで取り組んでいく」ということを表しているという感じがしました。

今日の委員会では、現行の計画の棚卸しをして、新たな計画の骨子を打ち出していただいた中で、見えてきた課題に注目することも大事だと思います。小牧ならではの課題がその中にありますが、その一つとして、縦割りでは対応できないはざまの問題が非常にたくさん起きてきているということがあります。

それをみんなでどのように組み立てていくのかというところで、次の具体的な計画づくりに入っていくのだろうと思っています。この骨子の部分までは、見た目のよい計画になっていますが、もう少し泥臭いところにも焦点を当てていかなければならないのではないかと感じました。今日、本当に皆さんから様々な貴重なご意見をいただきまして、非常に勉強になりました。

長岩会長)

先ほど外国人の介護問題は、それほどまだ深刻でもなさそうな雰囲気でしたが、介護人材をどう確保するのかということは、介護保険事業計画で非常に重要な課題です。今日はその話はしていませんが、次回の委員会で、もし各委員からこういうアイデアがあるとか、こういうことを行政としても取り組んでもらえないだろうかとか、他市町村でこういう取り組みがある

などのご意見があれば、ぜひ持ち寄って、話題にできたらよいと考えています。計画をつくっても、担い手がいなかったり、箱物はあるが、稼働できなかつたりすると、例えば介護保障の問題として非常に深刻ですので、このことについて次の委員会までにお考えいただければありがたいと思います。

3. その他

事務局)

- ・委員会の議事録（案）作成後、委員の皆さまにご確認いただく。
- ・次回の会議は令和5年10月26日に開催予定。

4. 閉会